

第3回尾張旭市交通問題対策協議会

1 開催日時

平成15年8月20日（水）

開会 午前10時

閉会 正午

2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 301会議室

3 出席者名

会長：加藤哲男 副会長：黒田鉦司

委員：大澤一夫、大矢英樹、荻原善夫、奥野昌明、苅谷勝、加藤桃代、
近藤重男、櫻井栄二、田中悦子、田中さゆり、寺田千珠子、
服部正勝、林喜一、日比野正夫

顧問：伊豆原浩二

4 議題等

- (1) 第2回目の議事の概要について
- (2) 自治体事例について（追加報告）
- (3) 事例視察先について（事務局案）
- (4) 事例視察のポイントについて
- (5) その他

5 会議の要旨

(1) 第2回目の議事の概要について

第2回の協議会会議概要の内容確認。インターネット等での会議概要公表の了承を得る。

(2) 自治体事例について（追加報告）

前回、愛知県ホームページに掲載されている20例を紹介しましたが、運行収入や運行経費などのデータを盛り込み、一覧表にしました。また、福島県小高町 e-まちタクシーの事例も挿入しました。

【意見】

- ・日進市は結構利用者数が多いですね。確かに行政の金額負担について考えなければなりません。どれだけ利用して、どれだけ市民のプラスになっているのかを考慮し、「公共交通は必要経費」として当然みるべきものだという

気がします。

また、三好町も効率がいいと思いますが、前回の先生のお話（問題を当事者意識をもって考える）にもありましたように、「住民がどれだけ理解して利用するか」という住民の考え方が一番大事だと思います。

- ・このデータのどこに着目したかというところ、運賃収入額と年間利用者数。

(例) 日進市の場合

運行経費：77,340,000円

運賃収入：8,534,000円

市町村負担額：68,806,000円

年間利用者数：284,621人

年間利用者数が全てお金を払えば、運賃収入にはねかえるはずですが。1人1000円の運賃ですから、お金を払った人は約85,300人と分かります。年間利用者数のうち約20万人の人は無料で乗っているというわけです。そういうふうには無料の人の比率が、7、8割ぐらいのところ、日進市、豊明市、長久手町、東郷町です。無料対象者をみていただければ分かりますが、要するに4市町は中学生以下と65歳以上の人が無料です。ほとんど無料バスといえます。その他の所は運賃収入が多いです。

(3) 事例視察先について（事務局案）

(4) 事例視察のポイントについて

事務局から、9月に長久手町Nバス、10月に西春町のくるくるタクシーの視察へ行く提案を行いました。

<視察はなぜ必要か>

「かねてから市職員や議員が視察に出ているのに、さらに我々委員が行く必要があるのか。」「武蔵野市や鈴鹿市のビデオを見れば参考になるのではないか。」等々の意見がだされました。そこで顧問から、視察を通してどんな問題意識を持つか、事例視察のポイントを伺い、その上で視察について意見を出し合いました。

<事例視察のポイントについて（案）>

担当者へのヒヤリング

現在のことしか目には見えないので、その前段階の話を聞く。通勤に使う人、病院の行き帰りに使う人…、いろいろな生活パターンの人の中で、どのように考え進めていったか。

1. システムの最初の発案者は？
2. システムの目的、対象者は？
3. システム検討の経緯はどのようなものか。
 - ・ルート、運行本数、バス停位置（環境）、料金などの考え方は？
 - ・運行経費をどう考えるか、またはどう評価しているか？
 - ・検討組織は？
 - ・検討する前の市民の意見はどのように把握し、取り入れたか？
 - ・どんな調査をしたか？
 - ・行政、市民の役割はどのように考えているか？
 - ・運行後の市民の反応は？
4. 公的負担、利用者負担について
 - ・どんな議論をしたか、またどんな意見がでたか？
5. バス事業者との調整について
 - ・バス事業者との協議はどのようにしたか？
6. 道路管理者、交通管理者との協議について
 - ・協議内容はどのようなものか、時間はどれくらい要したか？
7. 運行後のケアについて …サービスを上げていくための参考に
 - ・実際、どんなお客が多いか？（年齢、行き先）
 - ・現在、どんな要望が多く出ているか？路線の見直し、変更はどのように行っているか？

実体験をして

実際乗ってみて、尾張旭市でやるならどういうものがあるか、イメージを作る。

1. サービスについて
 - ・運行ルート、運行本数、停留所環境、停留所間隔など
2. 車両について
 - ・乗りやすさ、乗り心地
3. 車内環境
 - ・車内の雰囲気、運転手さんの感想
4. 住民の意見
 - ・利用者、非利用者などから

【意見】

● 協議会でまだ議論がなされていない。方向性がはっきりしないので、考えづらい。案も出しづらい。視察をするにしても、的を絞って見たほうが意味があると思います。

- 視察してから、（こうでは、この対象は利用しづらいだろう…）と考えることもできるので、視察はまず見てこよう、という感覚でいいと思います。
- 我々の協議会がまだ、どこをターゲットにするのかというのが見えていないので、わかりづらい。その議論はしておかないといけませんね。
- 考えづらいというのは、これから交通移動調査をすることになっていきます。市民の方にも調査に参加していただきますが、このことにより市民の皆さんにバス問題を認識してもらおうというねらいもあります。意識データ、行動データを整理し、確認しながら施策を打っていく予定です。
- 2日かけて視察するのは、時間がもったいないので、班を2つに分けて行くというのはどうですか？
- 尾張旭市と同じような状況のところを視察先に選ばませんか？
- 尾張旭市と同じような所でしかも成功しているところがあればすぐ解決するんですが、なかなかそうはいきません。

【意見交換の結果】

視察に行って、次にどうなるのかをはっきりさせたいという委員の意向により、来月は、この協議会がどういった方向性を、どんなスケジュールで構成していくかについて共通理解を持つことにする。ディスカッションして、問題意識を高め、もう少し議論が深まってから視察について進めることとします。

(5) その他

<平成15年8月27日に愛知県バス対策協議会が行われます>

愛知県バス対策協議会に名鉄バスから“路線廃止、変更等の申し出”が出されてから約半年が経過し、尾張旭市ではどんな対応で進めているのか、現在の状況を中間報告をしました。（「尾張旭市交通問題対策協議会を立ち上げ、検討中」と報告。）

『森林公園ゴルフ場前～藤ヶ丘』路線に関しては、キロ平均5人の乗車密度がないと、国や県からの補助が受けられません。尾張旭市がその補助金を受け持ち営業を続けてもらうか？それとも廃止とするか？新たな交通手段を市民で創出するか？

答えを出す期限はあと半年（平成16年2月）です。

まとめ

今回は、どういうふうこれから協議会の議論をつめていくか、という方向性を話し合いました。視察の対象はどこにでもありますので、そういった情

報に関心をもっていて、蓄積していただければありがたいと思います。